日本 International Safe School 認証申請書

日　本　語　版

大阪教育大学附属池田中学校

JISS

日本 International Safe School 認証センター

平成 26 年 10 月

目　　次

Ⅰ．学校概要 ---------- 1

Ⅱ．学校統計 ---------- 1

Ⅲ．本校教育の概要 ---------- 3

Ⅳ．International Safe School の取組に至った経緯 ---------- 5

Ⅴ．1.外傷状況 ---------- 6
2.いじめの状況 ---------- 10

Ⅵ．ISS の 8 つの指標 ---------- 12

Ⅶ．42 項目の Benchmark Matrix ---------- 13

Ⅷ．8 つの指標に基づいた取組
指標-1　教職員・児童・生徒・学生及び保護者や地域関係者が、各種の安全の取り組みに主体的に参加し、連携・協働して活動するための組織が校務分掌上に位置づけられている ---------- 16
指標-2　教育委員会及び地方自治体における安全・安心なまちづくりの理念も参考に、学校独自の安全の推進に関わる安全方針が規定されている ---------- 18
指標-3　児童・生徒等の性別・年齢別特性や、学校の立地環境や組織・規模に関わる特性などを考慮した長期的な視野を持った持続可能な安全の取り組みが策定され実践されている ---------- 20
指標-4　危険の発生が危惧される、もしくはその影響を受けやすいと想定されるすべての集団や環境を対象とした安全の取り組みが策定され実践されている ---------- 24
指標-5　各種の安全の推進に関わる取り組みについて、明確な根拠に基づいた実証性のある評価が行われている ---------- 26
指標-6　学校の管理下で発生したすべての災害（負傷・疾病、不慮の事故、意図的な暴力や自傷行為等によるものを含む）の発生状況や原因等を記録・分析し、その後の対策立案に活用可能な資料として文書化されている ---------- 28
指標-7　学校における安全方針や学校安全計画に含まれる各種の安全の取り組みによる効果の推移と成果について、客観的な尺度を用いた測定・評価が実施され、その結果が活用可能な資料として整理保管されている ---------- 30
指標-8　各地域や国内外での学校安全推進の取り組みに積極的に参加して、安全に関わる先進事例の収集に努めるとともに、自校の実践に関わる経験の情報発信やその成果の共有に取り組んでいる ---------- 32

Ⅸ．長期展望 ---------- 33

Ⅰ．学校概要

1. 学校名 ： 大阪教育大学附属池田中学校
2. 所在地 ： 大阪府池田市緑丘 1-5-1
3. 郵便番号 ： 563-0026
4. 電話番号 ： 072-761-8690
5. Fax 番号 ： 072-761-1104
6. E-Mail ： tujimoto@cc.osaka-kyoiku.ac.jp
7. Website ： www.ikeda-j.oku.ed.jp/
8. 通学区域 ： 池田市，豊中市，箕面市，吹田市，高槻市，守口市，門真市，大阪市の一部,能勢町，豊能町，島本町，川西市，伊丹市，尼崎市，宝塚市，西宮市，芦屋市，猪名川町
9. 校長 ： 野 浪　正 隆
10. 副校長 ： 辻 本　堅 二
11. 主幹教諭 ： 平 山　ち さ と
12. 連絡担当者 ： 藤 井　宏 明
13. 担当者職名 ： 安 全 主 任

Ⅱ．学校統計(平成 26 年 5 月 1 日現在)

1. 生徒数 ： 479 名
2. 在籍生徒年齢 ： 12 歳～15 歳
3. 常勤教員 ： 23 名
4. 非常勤教員 ： 5 名
5. 職員 ： 10 名
6. 校種 ： 中学校（国立）

阪急池田駅
Ikeda Station
大阪教育大学附属池田中学校
Ikeda Junior High School
Attached to Osaka Kyoiku
University
池田駅前
池田駅東口
大阪教育大附池田中
阪急宝塚線

校地・校舎の概要
(Campus Map)
大阪教育大学
附属池田中学校
附属高等学校池田校舎
小中高校地面積 …… 78,615㎡
中高校地面積 …… 50,212㎡
校舎面積(中) …… 4,616㎡
体育館・武道館 …… 1,960㎡
メディアセンター …… 1,200㎡
国際教育センター …… 543㎡
池田キャンパス教育相談室 … 133㎡
学校危機メンタルサポートセンター
A Mental Support Center from School Danger
国際教育センター(さつきホール)
International Education Center
附属高校校舎
Ikeda High School Building
メディアセンター
Media Center
運動場(中・高)
Ground
体育館
(中・高)
Gym
附属中学校校舎
Junior High School Building
現在地
武道館
(Gym)
池田キャンパス教育相談室
Ikeda Campus Educational Counseling Office
食堂
Cafeteria
テニスコート
Tennis Court
運動場(小)
Ground
体育館(小)
Gym
プール(小)
Swimming Pool
プール(中・高)
Swimming Pool
附属池田小学校校舎
Elementary School Building
正門
Main Gate
2013.3.13 附属池田中学校 第65期卒業生寄贈 (英訳:国際枠生徒)

Ⅲ．本校教育の概要

1. 本校の任務

① 教員養成大学である大阪教育大学の研究校

② 大阪教育大学の学生の教育実習校

③ 現職教育への奉仕をする学校

④ 常に新しい教育理念と中正な教育的信念を持ち、望ましい環境の内に個性を生かしながら、真の中等普通教育を実施することを目指している学校

⑤ 一般生徒、国際枠生徒(帰国生徒、在日外国籍生徒)、学校災害特別研究生徒からなる混合学級で授業を行い、新しい教育の開発を目指している学校

2. 本校の教育目標

① 自主・自律につながる学びの基礎・基本の確立

② 確かな学力の育成

③ 自他の文化の理解・共生の心の涵養

3.本校の沿革(2012 年以降は学校安全関係が中心)

1947. 4.15	大阪第二師範男子部附属中学校として創立(池田市城山)
1949. 7.13	校名改称　大阪学芸大学大阪第二師範学校池田附属中学校
1951. 4.13	校名改称　大阪学芸大学附属池田中学校
1956. 4.29	現在地に移転(池田市緑丘)
1967. 6. 1	校名改称　大阪教育大学附属池田中学校
1969. 7.15	プール完成
1971. 4.24	体育館，武道館完成
1972. 6. 1	校名改称　大阪教育大学教育学部附属池田中学校
1994.11.30	メディアセンター完成
2004. 4. 1	校名改称　大阪教育大学附属池田中学校
2010. 2.28	南校舎耐震・改修工事完了
2012. 4.14	第 2 回アジア・太平洋学校安全推進フォーラムに参加
	日本 International Safe School 認証センター記念祝賀会に参加
2012. 7.30～31	学校安全主任講習会に参加

2012.11. 4　　ＩＳＳ推進員養成セミナーに参加

2012.11.17　　熊本大学附属中学校から学校安全視察受入

2012.11.29　　International Safe School 認証取得を目指す意思を正式の表明

2012.12.12～15　台湾嘉義市 International Safe School の取組視察

2013. 3. 2　　アジア・太平洋学校安全推進フォーラムで生徒が取組発表

2013. 3. 4～5　大阪教育大学附属池田小学校 ISS 再認証実地審査，認証式典に参加

2013. 3.31　　防災備蓄倉庫完成

2013. 7. 1　　タイ王国教育省から学校安全視察受入

2013.11.29　　東京学芸大学附属小金井中学校から学校安全視察受入

2013.12.25～28　台湾台北市 International Safe School の取組視察

2014. 1.25　　ＩＳＳ推進員養成セミナーで取組発表

2014. 2.27　　愛知県西尾市立西尾中学校から学校安全視察受入

2014. 3. 6　　池田市消防署から感謝状授与

2014. 3. 7　　学校危機メンタルサポートセンターセンターフォーラムに参加

2014. 3. 8　　臨時ＩＳＳ推進員養成セミナーに参加

2014. 3.24　　e 安全学習研修会に参加

2014. 5.12～15　第 7 回アジア地域セーフコミュニティ国際会議で取組発表(韓国 釜山)

2014. 7.30～31　学校安全主任講習会に参加

2014. 8.31　　北校舎耐震改修工事完了

2014.10. 9　　International Safe School 認証実地審査

4. International Safe School 宣言

私たちは目指します

優しさ溢れるあたたかな学校を

みんなが安心して過ごせる安全な学校を

そして世界に発信していきます

笑顔の大切さを

Ⅳ. International Safe School の取組に至った経緯

1.時代の要請

学校という場において，児童生徒等が生き生きと学習や運動等の活動を行うためには，児童生徒等の安全の確保が保障されることが不可欠の前提となる。また，児童生徒等は守られるべき対象であることにとどまらず，学校において，その生涯にわたり，自らの安全を確保することのできる基礎的な素養を育成していくことが求められる。

しかし，学校管理下における事件・事故災害等による児童生徒等の負傷や障害，死亡事例は依然として多く，特に，学校における負傷については大きく増加している。また，学校への不審者侵入事案，登下校中における交通災害，地震や大雨をはじめとする自然災害等，学校安全を脅かす事案は後を絶たない。それ故，学校安全は喫緊の課題であると言える。

これらのことを鑑みると，子どもへの安全教育は，将来につながる安全意識・能力の基盤を培うものであり，長期にわたる教育の継続によって，次代を担う子どもたちに安全に関する考え方を定着させる効果がある。また，子どもに対する安全教育がなされることにより，適切な指導を受けた子どもが緊急時に率先して避難行動をとり，安全意識が必ずしも高くない大人に避難を促すという効果も期待できる。こうしたことから，中長期的な視点で考えた場合，学校教育において安全に関する指導を行うことは，次代の安全文化を構築するという意義も担っている。

2.子どもの実態

本校生徒の登下校や学校生活の様子を見ると，安全に関する知識・技能はある程度は身についてはいるものの課題も残る。その根底にあるものは安全意識の継続性の欠如である。

事件・事故災害に対し，自ら危険を予測し，回避するためには，知識とともに，習得した知識に基づいて的確に判断し，迅速な行動をとることができる力を身につけることが必要である。そのためには，日常生活においても状況を判断し，最善を尽くそうとする「主体的に行動する態度」を育成する必要がある。また，中学時代は自発性が培われ，自身で行動，他にも目配り，気配り，発信していく力が飛躍的に伸張する時期であり，「主体的に行動する態度」が育まれやすい。

3.池田キャンパスの使命

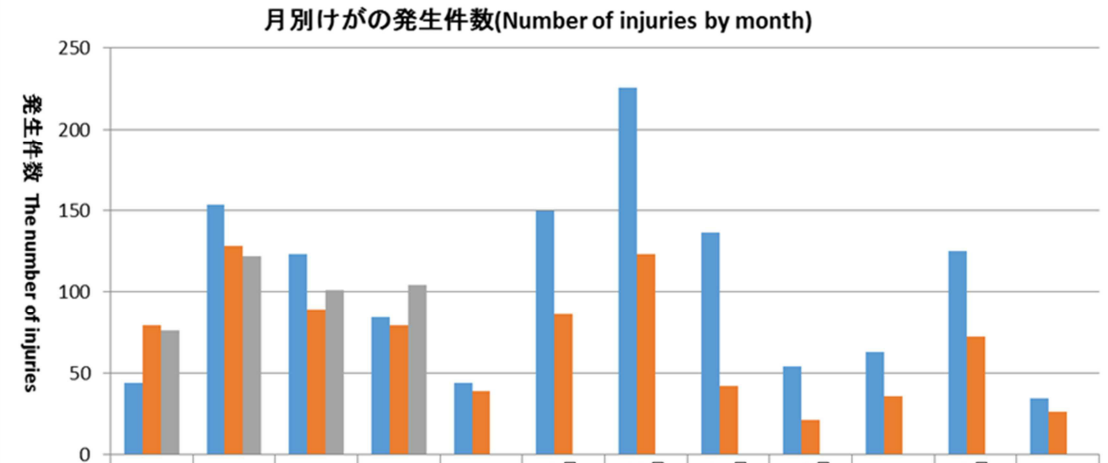
平成 13 年 6 月 8 日に起きた池小事件を踏まえ，池田地区附属学校園では学校・保護者・関係諸機関(地域)が連携を図り，学校安全に取り組んできた。また，附属池田小学校においては施設・設備の充実はもちろんのこと,組織的･継続的に安全教育を推進し,平成 22 年 3 月 5 日に International safe school の認証を受け，平成 25 年 3 月 5 日に再認証を受けた。

とりわけ,平成 22 年度より文部科学省の教育課程特例校として指定を受け,設置された｢安全科｣が児童の危険予知・回避能力を育むこと，そして命の大切さを実感し，生涯にわたって安全・安心な暮らしを営み，安全・安心な社会を構築する人材を育むべく展開されている。

以上のことを踏まえ,**「安全･安心な学校は豊かな学びを創造する」**を確信し,International safe school の認証取得を目指した。

Ⅴ-1. 外傷状況

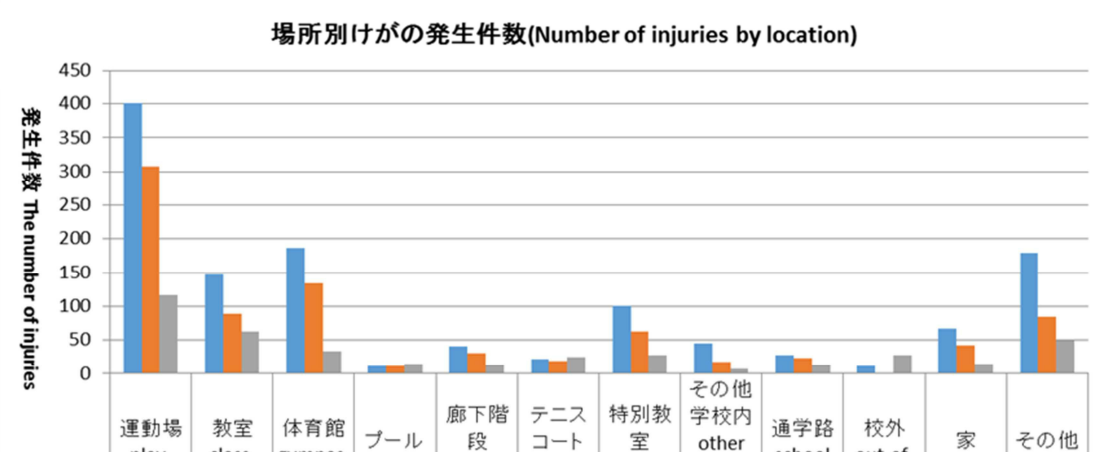
月別けがの発生件数（Number of injuries by month）



	4月 April	5月 May	6月 June	7月 July	8月 August	9月 Septem-ber	10月 Octo-ber	11月 Novem-ber	12月 Decem-ber	1月 January	2月 Februar y	3月 March
2012	44	154	123	84	44	150	225	136	54	63	125	34
2013	79	128	89	79	39	86	123	42	21	36	72	26
2014	76	122	101	104								

・けがによる来室者数は減少傾向にある。

場所別けがの発生件数（Number of injuries by location）

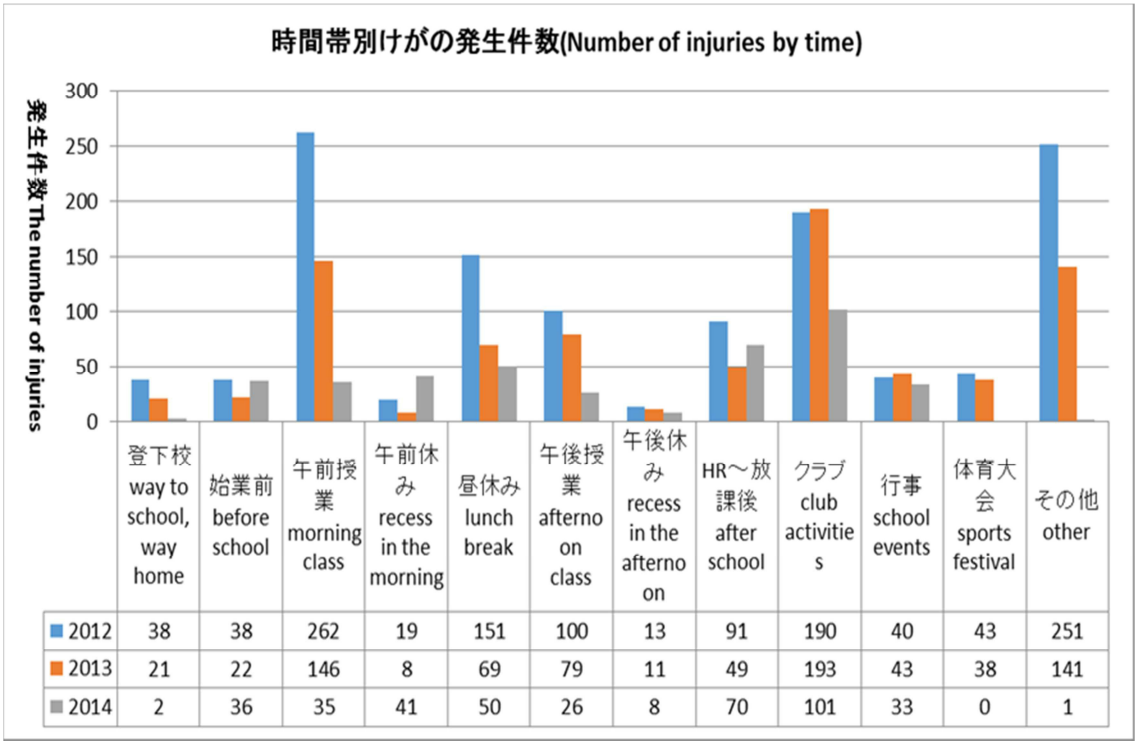


	運動場 play-ground	教室 class-room	体育館 gymnas-tic hall	プール Pool	廊下階段 corridor stairs	テニスコート tennis court	特別教室 special rooms	その他学校内 other places at school	通学路 school zone	校外 out-of-school	家 home	その他 other
2012	401	147	187	11	40	21	100	45	27	11	67	179
2013	308	89	134	11	30	19	63	17	23	0	42	84
2014	116	62	33	15	13	25	27	7	13	28	14	50

・運動場，体育館でのけがが圧倒的に多く，部活，体育的行事，体育授業によるけがが多いものと考えられる。

・特別教室でのけがは，美術・技術・家庭の実技教科，理科の実験にともなう道具の使用中のけが多いと考えられる。

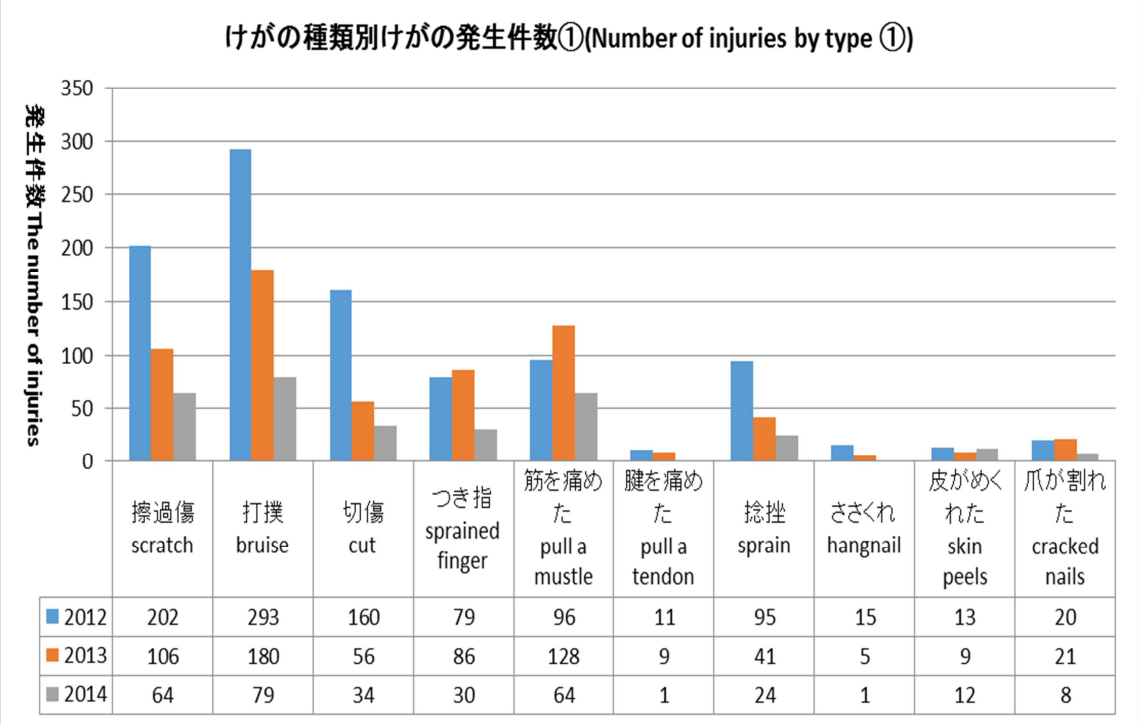
時間帯別けがの発生件数（Number of injuries by time）



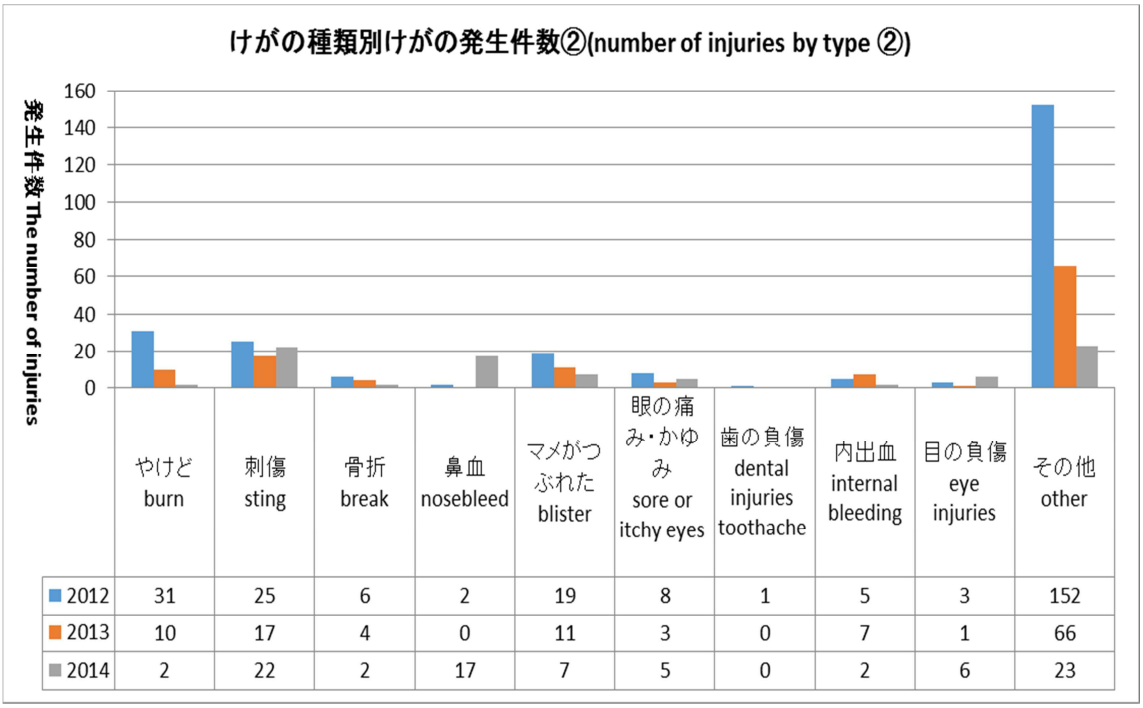
	登下校 way to school, way home	始業前 before school	午前授業 morning class	午前休み recess in the morning	昼休み lunch break	午後授業 afternoon class	午後休み recess in the afternoon	HR～放課後 after school	クラブ club activities	行事 school events	体育大会 sports festival	その他 other
2012	38	38	262	19	151	100	13	91	190	40	43	251
2013	21	22	146	8	69	79	11	49	193	43	38	141
2014	2	36	35	41	50	26	8	70	101	33	0	1

・午前中の授業中，昼休みも多いが，部活中のけがが圧倒的に多い。
・部活中のけがは減少していない。
・その他は学校外でのけがである。

けがの種類別けがの発生件数（Number of injuries by type ）



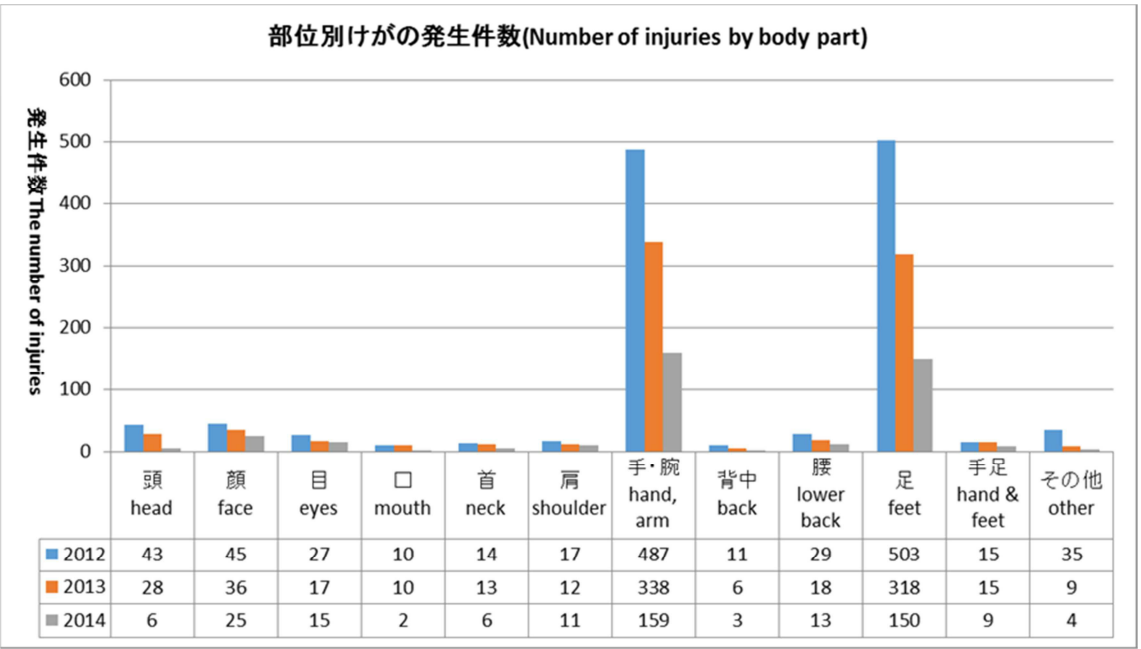
	擦過傷 scratch	打撲 bruise	切傷 cut	つき指 sprained finger	筋を痛めた pull a mustle	腱を痛めた pull a tendon	捻挫 sprain	ささくれ hangnail	皮がめくれた skin peels	爪が割れた cracked nails
2012	202	293	160	79	96	11	95	15	13	20
2013	106	180	56	86	128	9	41	5	9	21
2014	64	79	34	30	64	1	24	1	12	8



	やけど burn	刺傷 sting	骨折 break	鼻血 nosebleed	マメがつぶれた blister	眼の痛み・かゆみ sore or itchy eyes	歯の負傷 dental injuries toothache	内出血 internal bleeding	目の負傷 eye injuries	その他 other
2012	31	25	6	2	19	8	1	5	3	152
2013	10	17	4	0	11	3	0	7	1	66
2014	2	22	2	17	7	5	0	2	6	23

・打撲，筋を痛めた，つき指，捻挫が多く，部活動や体育的活動によるものであると考えられる。

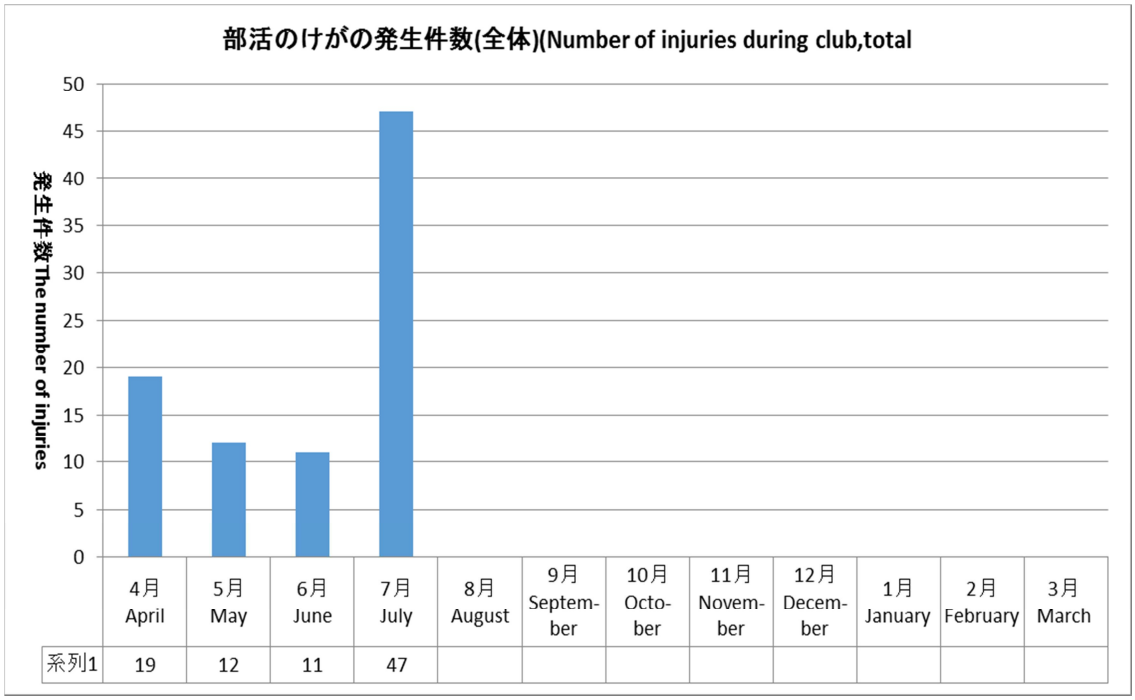
部位別けがの発生件数（Number of injuries by body part）



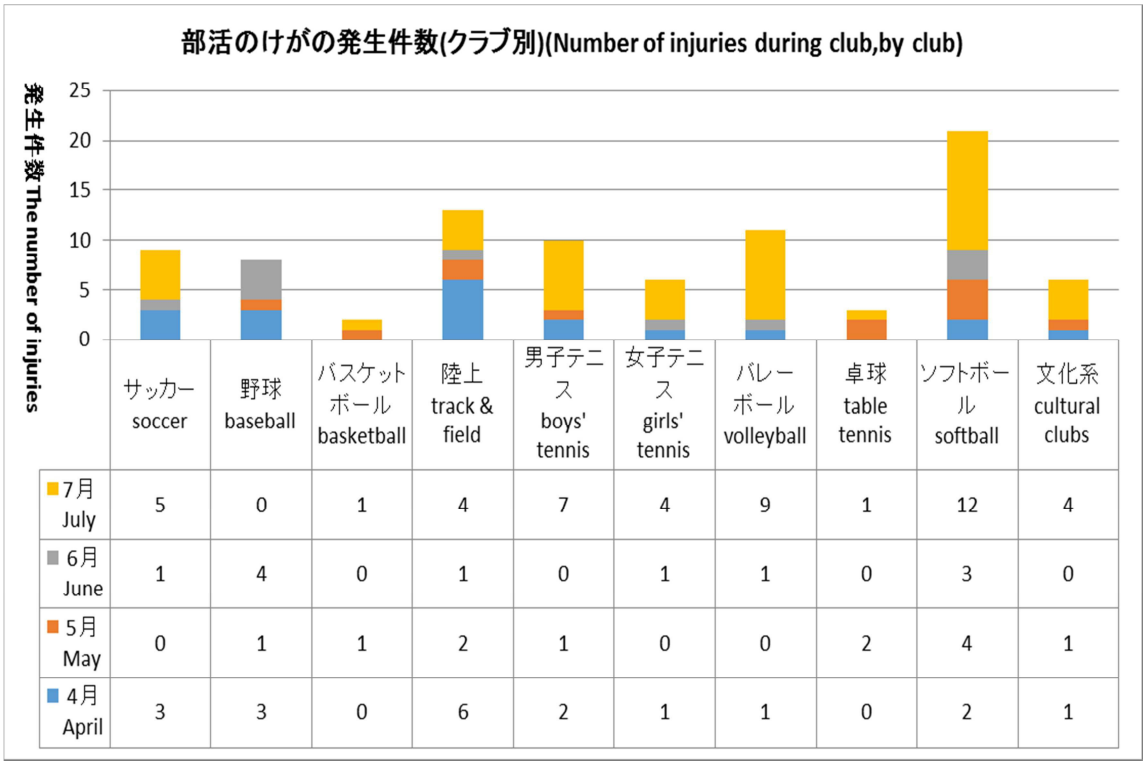
	頭 head	顔 face	目 eyes	口 mouth	首 neck	肩 shoulder	手・腕 hand, arm	背中 back	腰 lower back	足 feet	手足 hand & feet	その他 other
2012	43	45	27	10	14	17	487	11	29	503	15	35
2013	28	36	17	10	13	12	338	6	18	318	15	9
2014	6	25	15	2	6	11	159	3	13	150	9	4

・手，腕，足のけがが多いのは，擦過傷や打撲，筋を痛めた，つき指，捻挫によるものであると考えられる。
・頭，顔，目のけがについては，どの程度のものか，また原因を考える必要があり，大幅な減少をめざした取組が必要である。

部活のけがの発生件数(全体)(Number of injuries during club (total))



部活のけがの発生件数(クラブ別)(Number of injuries during club (by club))



・4 月から 6 月にかけて確実にけがが減少してきた。

・7 月にけがが多いのは夏休みに入り試合前になるので，練習時間が増えたことが原因であると考えられる。30%は減少させたい。

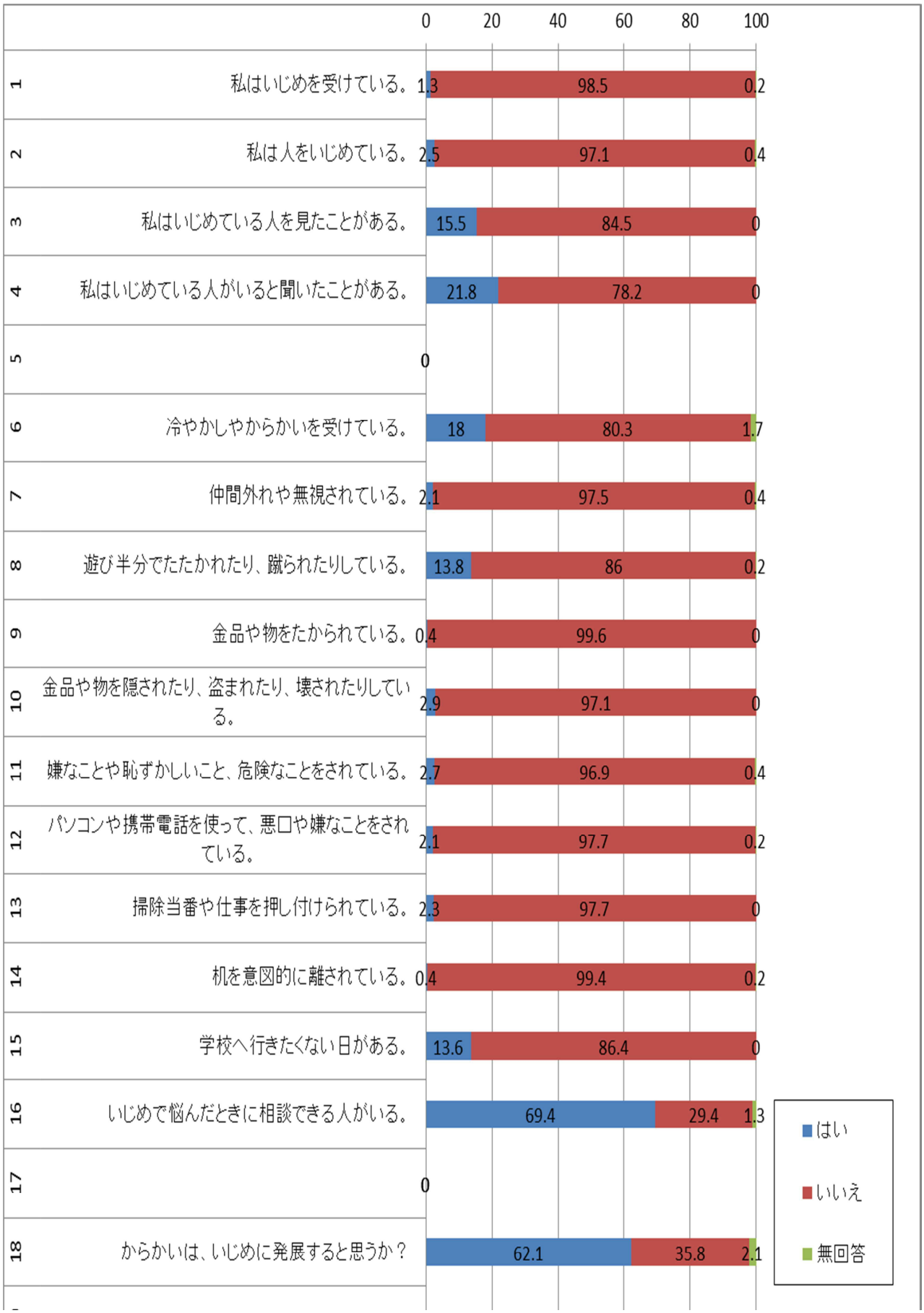
Ⅴ-2.　いじめの状況

人権に関するアンケート（平成 26 年 6 月実施 全校生徒 479 人対象）

	質問内容	はい	いいえ	無回答
1	私はいじめを受けている。	1.3	98.5	0.2
2	私は人をいじめている。	2.5	97.1	0.4
3	私はいじめている人を見たことがある。	15.5	84.5	0
4	私はいじめている人がいると聞いたことがある。	21.8	78.2	0
5		0	0	0
6	冷やかしやからかいを受けている。	18	80.3	1.7
7	仲間外れや無視されている。	2.1	97.5	0.4
8	遊び半分でたたかれたり、蹴られたりしている。	13.8	86	0.2
9	金品や物をたかられている。	0.4	99.6	0
10	金品や物を隠されたり、盗まれたり、壊されたりしている。	2.9	97.1	0
11	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされている。	2.7	96.9	0.4
12	パソコンや携帯電話を使って、悪口や嫌なことをされている。	2.1	97.7	0.2
13	掃除当番や仕事を押し付けられている。	2.3	97.7	0
14	机を意図的に離されている。	0.4	99.4	0.2
15	学校へ行きたくない日がある。	13.6	86.4	0
16	いじめで悩んだときに相談できる人がいる。	69.4	29.4	1.3
17		0	0	0
18	からかいは、いじめに発展すると思うか？	62.1	35.8	2.1

・数としては少ないが，いじめを受けていると感じている人はいる。
・学校へ行きたくない日があると答えた人が 13.6%いる。原因を考える必要がある。
・いじめで悩んだときに相談できる人がいないと答えた人が 29.4%もいる。原因のひとつとして，話しやすい雰囲気に欠けているのかもしれない。
・からかいはいじめに発展すると考えている人が 62.1%もいることから「からかい」を問題視している人が多い。また，遊び半分でたたかれたり，蹴られたりしている人が 13.8%いる。
・「からかい」や「遊び半分」について，相手の気持ちを考えたり，なぜそのようなことをしてしまうのかなど，みんなで考えていく必要がある。

生徒会では
『いじめをなくすためには相談や話すことがしやすい雰囲気・環境をみんなでつくる』ということを中心に取り組んでいきます。


0
20
40
60
80
100
1 私はいじめを受けている。 1.3 98.5 0.2
2 私は人をいじめている。 2.5 97.1 0.4
3 私はいじめている人を見たことがある。 15.5 84.5 0
4 私はいじめている人がいると聞いたことがある。 21.8 78.2 0
5 0
6 冷やかしやからかいを受けている。 18 80.3 1.7
7 仲間外れや無視されている。 2.1 97.5 0.4
8 遊び半分でたたかれたり、蹴られたりしている。 13.8 86 0.2
9 金品や物をたかられている。 0.4 99.6 0
10 金品や物を隠されたり、盗まれたり、壊されたりしている。 2.9 97.1 0
11 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされている。 2.7 96.9 0.4
12 パソコンや携帯電話を使って、悪口や嫌なことをされている。 2.1 97.7 0.2
13 掃除当番や仕事を押し付けられている。 2.3 97.7 0
14 机を意図的に離されている。 0.4 99.4 0.2
15 学校へ行きたくない日がある。 13.6 86.4 0
16 いじめで悩んだときに相談できる人がいる。 69.4 29.4 1.3
17 0
18 からかいは、いじめに発展すると思うか？ 62.1 35.8 2.1
はい
いいえ
無回答

Ⅵ. ISS の 8 つの指標

指標 1	教職員・児童・生徒・学生及び保護者や地域関係者が、各種の安全の取り組みに主体的に参加し、連携・協働して活動するための組織が校務分掌上に位置づけられている。
指標 2	教育委員会及び地方自治体における安全・安心なまちづくりの理念も参考に、学校独自の安全の推進に関わる安全方針が規定されている。
指標 3	児童・生徒等の性別・年齢別特性や、学校の立地環境や組織・規模に関わる特性などを考慮した、長期的な視野を持った持続可能な安全の取り組みが策定され実践されている。
指標 4	危険の発生が危惧される、もしくはその影響を受けやすいと想定されるすべての集団や環境を対象とした安全の取り組みが策定され実践されている。
指標 5	各種の安全の推進に関わる取り組みについて、明確な根拠に基づいた実証性のある評価が行われている。
指標 6	学校の管理下で発生したすべての災害（負傷・疾病、不慮の事故、意図的な暴力や自傷行為等によるものを含む）の発生状況や原因等を記録・分析し、その後の対策立案に活用可能な資料として文書化されている。
指標 7	学校における安全方針や学校安全計画に含まれる各種の安全の取り組みによる効果の推移と成果について、客観的な尺度を用いた測定・評価が実施され、その結果が活用可能な資料として整理保管されている。
指標 8	各地域や国内外での学校安全推進の取り組みに積極的に参加して、安全に関わる先進事例の収集に努めるとともに、自校の実践に関わる経験の情報発信やその成果の共有に取り組んでいる。

Ⅶ. 42 項目の Benchmark Matrix

指標 1・2

	指標 1　　組　織	指標 2　　方　針
施設設備 校　舎 施設等	・学校保健安全委員会による計画立案 ・安全点検項目の策定 ・各教室や施設等の火元責任者(安全点検担当者)の決定	・教員の校内巡回による問題箇所の発見 ・問題箇所は迅速に改善
外傷予防 負　傷 疾　病	・養護教諭と保健主事による計画立案 ・校内安全規則の決定 ・新年度用のけが調べプログラム準備	・外傷予防指導の重点化 ・学校感染症の蔓延の防止
犯罪予防 不審者 誘　拐 連れ去り	・学校保健安全委員会による計画立案 ・不審者対応訓練の実施日決定 ・不審者対応マニュアルの見直し	・教職員の不審者対応スキルの向上 ・不審者対応マニュアルの改訂
生活指導 いじめ 暴　力 薬物乱用 ネット被害	・生徒会によるいじめ・暴力防止を含む安全・安心な学校づくりの取組策定 ・学校保健安全委員会による外部機関との連携	・生徒指導上の問題を全教職員で共有 ・生徒会の問題意識の向上 ・スクールカウンセラーとの連携 ・警察等、外部機関との連携・協力
災害安全 地　震 風水害 火　災	・学校保健安全委員会による計画立案 ・避難訓練の年間計画への位置づけ	・実際の災害を想定した避難訓練の実施 ・総合学習の授業による安全意識の向上
交通安全 交通事故 歩行者 運転者	・学校保健安全委員会と PTA 安全委員会が計画立案 ・教員の巡回指導計画の策定 ・PTA 立ち当番の計画策定	・安全およびマナーを遵守した登下校を行う態度の育成 ・教職員及び保護者による安全確保 ・学級活動の授業による安全意識の向上
家庭・地域 虐　待 通学路	・警察署・消防署等の外部機関との連携 ・学校安全管理委員の委嘱 ・メール送信システムの新規準備	・安全管理年間計画の策定 ・警察署・消防署等の外部機関との連携、協力

指標 3・4・5

	指標 3・4　　企画・実践	指標 5　　評　価
施設設備 校　舎 施設等	・月 1 回の安全点検の実施 ・施設設備の問題箇所の修理、改善	・安全点検、問題箇所の結果報告 ・問題箇所の修理、改善報告 ・学校教育診断による評価
外傷予防 負　傷 疾　病	・生徒集会や学級指導による安全意識の向上 ・外傷の実態把握 ・生徒会による外傷予防の取組 ・養護教諭による部活における外傷予防指導 ・学校医との連携	・けが調べ結果報告 ・生徒会によるアンケート結果報告
犯罪予防 不審者 誘　拐 連れ去り	・教員対象の不審者対応訓練の実施(年 2 回) ・生徒対象の不審者対応訓練の実施 ・安まちメールの活用	・教員対象の不審者対応訓練後の協議 ・生徒対象の不審者対応訓練後の振り返り
生活指導 いじめ 暴　力 薬物乱用 ネット被害	・学級活動における授業の取組 ・生徒集会における啓発活動 ・警察等、外部機関による薬物乱用防止教室の実施	・授業ワークシートや振り返りによる評価 ・生徒会によるアンケート結果報告 ・学校教育診断による評価
災害安全 地　震 風水害 火　災	・各種避難訓練の実施 ・総合学習の授業実施 ・普通救命講習の実施 ・応急手当普及員講習への参加	・各種避難訓練後の協議 ・授業ワークシートや振り返りによる評価
交通安全 交通事故 歩行者 運転者	・学級活動の授業実施 ・日直による巡回指導及び安全確保 ・PTA 立ち当番による安全確保	・学校安全管理委員会からの評価 ・生徒会によるアンケート結果報告
家庭・地域 虐　待 通学路	・ケータイ安全教室や思春期教室等による保護者の啓発 ・PTA、生徒の清掃活動による通学路の安全確保	・学校安全管理委員会からの評価

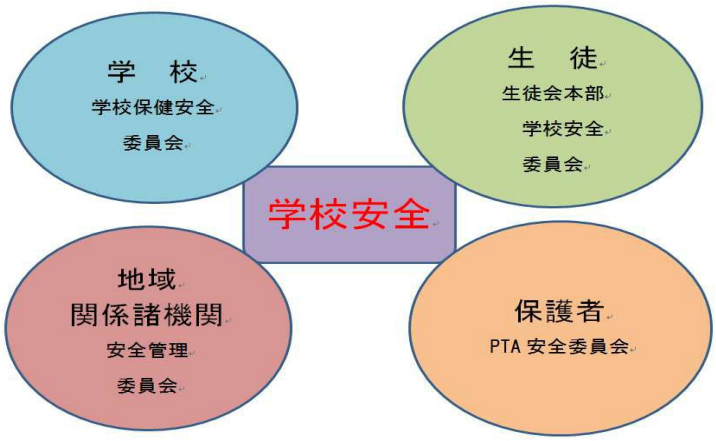
指標 6・7・8

	指標 6・7　　資料保管	指標 8　　共　有
施設設備 校　舎 施設等	・安全点検表の保管 ・安全に関わる各種会議録の保管	・学校安全管理委員会への報告 ・学校視察の受け入れ
外傷予防 負　傷 疾　病	・けが記録の保管 ・学校感染症等記録の保管 ・安全指導、保健指導の記録の保管 ・健康診断票の保管及び進学先への送付	・学校安全管理委員会への報告 ・生徒会新聞による報告 ・学校視察の受け入れ
犯罪予防 不審者 誘　拐 連れ去り	・不審者対応訓練および協議会記録の保管 ・振り返りシートの保管	・学校安全管理委員会への報告 ・学校視察の受け入れ
生活指導 いじめ 暴　力 薬物乱用 ネット被害	・学級活動の授業記録の保管 ・生徒会新聞の保管 ・薬物乱用防止教室の資料保管	・生徒集会での報告 ・他校との生徒会交流会
災害安全 地　震 風水害 火　災	・各種避難訓練後の協議会記録の保管 ・普通救命講習資料の保管 ・授業ワークシートや振り返りの保管	・各種避難訓練後の協議会実施 ・研究発表会での授業公開 ・学校視察の受け入れ
交通安全 交通事故 歩行者 運転者	・学校安全管理委員会会議録の保管 ・巡回指導における問題点の記録保管 ・PTA 立ち当番による問題点の記録保管	・学校安全管理委員会への報告
家庭・地域 虐　待 通学路	・ケータイ安全教室や思春期教室の資料保管 ・地域清掃の記録保管	・学校安全管理委員会への報告

Ⅷ．８つの指標に基づいた取組

指標－１　教職員・児童・生徒・学生及び保護者や地域関係者が、各種の安全の取り組みに主体的に参加し、連携・協働して活動するための組織が校務分掌上に位置づけられている

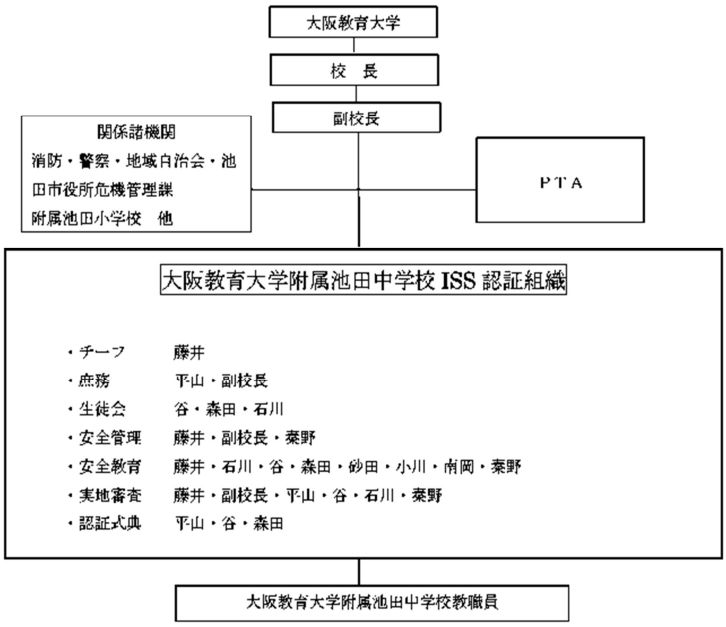
(1)連携・協働するための組織づくり



子どもたちの豊かな学びを保障する学校安全を「学校」「生徒」「保護者」，そして「地域・関係諸機関」が連携を密にしながら，ネットワーク化を図っている。各組織でそれぞれの役割を担いながらも協働できるコミュニティを形成している。

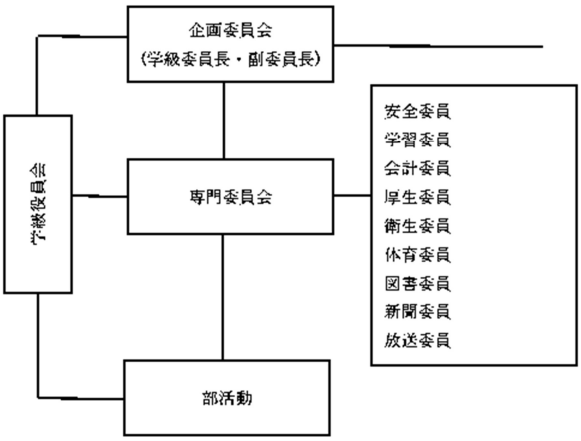
(2)学校組織

校長を中心に策定した学校安全の方針や目標を具現化するのが「学校保健安全委員会」である。学校保健安全委員会は学校安全主任をチーフとして，校長，副校長，主幹教諭をはじめ教務主任，研究主任，生徒指導主事，生徒会担当，養護教諭で構成されており，この委員会で共通認識を図り，各分掌と連携した取組を行っている。



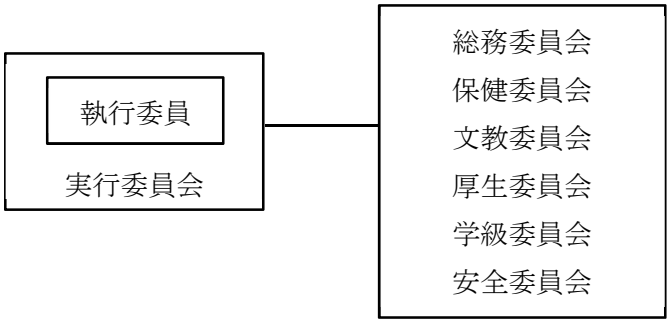
(3) 生徒会組織

本年度より専門委員会に新たに安全員会を創設した。生徒会本部が掲げる「笑顔溢れる附中生～みんなが 笑顔あふれる学校 過ごしやすい学校 を目指して～」をテーマに，生徒会本部と各専門員会が連携を図り，安全・安心な学校を生徒自身で創りあげていく取組を行っている。



(4) PTA 組織（保護者）

本校の PTA は PTA 実行委員会，安全委員会を中心に子どもたちの安全に対する取組や見守りを行っている。また，小学校，高等学校の PTA と連携を図った取組も行っている。



(5) 安全管理委員会（地域・関係諸機関）

学校間だけではなく，地域の方々や関係諸機関とも連携を図り，安全に対する取組の協力や評価を行っていただいている。

安全管理委員会

池田市消防・池田警察生活安全課・池田市役所危機管理課・鉢塚町内会・学校危機メンタルサポートセンター・附属池田小学校・
附属高等学校池田校舎・附属池田中学校

指標－２　教育委員会及び地方自治体における安全・安心なまちづくりの理念も参考に、学校独自の安全の推進に関わる安全方針が規定されている

(1)学校経営計画と学校安全計画

学校経営計画

安全・安心な学校づくり
- ◎ISS 認証取得に向けた学校安全組織・生徒会組織の確立
- ◎PTA 等の関係機関との連携強化
- ◎安全管理の推進
- ◎安全教育の充実

平成 26 年度学校安全計画

	A 安全教育 安全学習および安全指導	B 安全管理 対人管理および対物管理	C 組織活動 生徒会活動、PTA 活動および地域(関係諸機関)との連携
1 生活安全	・生徒自身が外傷予防に取り組もうとする態度を育成する。 ・安全教育通して、生徒の危険予知能力を高める。 ・不審者対応訓練等を通して生徒・教職員の危険対応能力を・高める。	・校内安全点検等を実施し、校内の危険箇所を減少させる。 ・メール配信システムを活用し、保護者に情報を適切に伝える。 ・消防や警察との連携を図り、救急搬送等が適切に行えるようにする。	・普通救命講習を実施し、教職員・保護者・生徒の救急救命救急スキルを高める。 ・生徒会活動により校内の危険箇所を減らす。 ・生徒会の啓発活動により安全安心な学校づくりに取り組む。
2 災害安全	・地震、火災対応の避難訓練を定期的に実施し、生徒の防災スキルを高める。 ・防災に関する授業を実施する。 ・小学生との合同避難訓練を実施し、共助の姿勢を養う。	・消防計画や防災組織編成に基づき、教員がそれぞれの役割を果たす。 ・防災備蓄倉庫の備品の点検および充実を図る。 ・災害時における保護者への連絡体制を確立する。	・普通救命講習を実施し、教職員や保護者の救命救急スキルを高める。 ・学校安全管理委員会において学校の取組に対する評価を受ける。
3 交通安全	・安全およびマナーに留意した登下校しようとする態度を育成する。 ・交通安全に関する授業を実施する。	・日直が登校時に通学路を巡回し、安全を確保する。 ・登校時に危険情報を報告、共有する。	・保護者や地域の協力を得て登下校の安全が確保するように努める。

(2)生徒会の取組計画

スローガン

笑顔溢れる附中生　みんなが　笑顔あふれる学校　過ごしやすい学校を目指して
　3S（スリーエス）　～Ｓｍｉｌｅ(笑顔)　Ｓａｆｅｔｙ(安全)
　Ｓｕｇｏｓｉｙａｓｕｉ(過ごしやすい)～

大阪教育大学附属池田中学校 生徒会 目標

・自分たちの学校を愛し、仲間を大切にし、伝統と文化を大切にしよう。
・あいさつを大切にし，規律ある学校にしよう。
・ひと,ものを大切にでき,心豊かな人間に成長しよう。

生徒会本部・企画委員会	**３Ｓの Smile（心の安心・安全）** **みんなが笑顔になれるよう「心の安心・安全」に取り組む** →アンケートの実施，生徒会組織全体の総括，生徒会だより等で情報の共有・発信　・引き続き，募金，あいさつ，リサイクル，規律面
安全委員	**安心・安全に学校生活を送るための提案や活動** →コーナーガードの管理，貴重品の管理やロッカーの施錠の呼びかけ，校内点検・安全への呼びかけ
学習委員	**学習環境の整備 安心・安全に落ち着いて授業を受けられる環境に** →チャイム着席，名札等の呼びかけ（授業規律），黒板等の落書き禁止や教室環境整備の呼びかけ，時間割のチェック・チョークの補充
会計委員	**学級の各委員と協力して、安心・安全に過ごせる学級づくりのための効果的な学級費の使い道を考える** →担任の先生のもとで、各委員会とも連携しながら学級費の管理
厚生委員	**校内美化の呼びかけや清掃活動（安心・安全に過ごすための校内環境整備）** →清掃チェック表などを利用した清掃活動の活性化，清掃用具点検等の清掃環境整備，校内美化の呼びかけや清掃活動
衛生委員	**保健室の利用状況（データ）をもとにしたケガ防止の呼びかけや取組** →保健室データの分析 ，　ケガの原因分析を各専門委員会と連携し生徒会全体に発信 ，ケガ防止の呼びかけや取り組み
放送委員	**放送を通して生徒会全体の情報共有** →生徒会全般(他委員会の活動報告や呼びかけ,部活動の活動報告など)の放送
図書委員	**図書室を快適に利用するための環境整備（本に親しむ環境を促す）** →図書室利用促進の為の活動
体育委員	**安心・安全な体育的行事の運営** →体育的活動から発生するケガ予防(防止)の取り組み,ケガ防止の為の取り組み(保健委員会の報告を受けてポスターの作成等),校内大会や体育大会等の体育行事の運営，体育授業時の授業補佐
新聞委員	**附中タイムスの発行などを通しての生徒会全体の情報共有** →附中タイムスの発行に向けての活動，各委員会と連携し情報発信
各部活動	下校放送，更衣室など利用施設の環境整備（清掃）

指標－３　児童・生徒等の性別・年齢別特性や、学校の立地環境や組織・規模に関わる特性などを考慮した、長期的な視野を持った持続可能な安全の取り組みが策定され実践されている

(1) 施設設備

月に１回，教職員が校内安全点検を行い，問題箇所があれば随時，修理・改善を行っている。また，生徒会本部，安全委員会が校内の危険箇所の点検を行い生徒会で対応できる部分は生徒会で，対応できない部分は教職員に報告を行っている。

安全点検表　平成26年度1学期　　保健安全委員会

40	担当区域	3A	担当者氏名	

【記入上の注意】　担当区域に該当しない項目には……／
検査結果の良いものには……○
検査結果の悪いものには……×

※　×印の記入されているものについては、担当者が処理できるものについては担当者が処理し、できないものは管理責任者が処理した後、処理欄に処理者の押印をすること。
※　下記上段の欄に点検実施日を記入し、確認印を押印すること。

	点検実施日	4月7日		5月8日		6月6日		7月8日	
	確認印								
	点検項目	結果	処理	結果	処理	結果	処理	結果	処理
整理整頓	教室出入り口は整理整頓されていますか								
	教卓・予備机周辺は整理整頓されていますか								
危険物	落下の危険のあるものはありませんか								
	床上180cmまでの高さに釘等の突起物はありませんか								
電気設備	コンセント・LANは正常ですか								
	劣化しているコード類はありませんか								
	テレビは正常ですか								
	蛍光灯はきれていませんか								
	空調設備は正常ですか								
設備	床・天井・壁・掲示板等のはがれはありませんか								
	ドア・窓は正常に開閉できますか								
	窓ガラスは正常ですか								
	生徒机・椅子は正常ですか								
	破損個所のあるロッカーはありませんか								
	教卓・予備机・教壇は正常ですか								
	掃除道具入れは正常ですか								
	ガスコックは正常ですか								
その他	コーナーガードがある場合はついていますか。								

その他担当場所の設備・安全についての問題点（具体的に）		処理
4月		
5月		
6月		
7月		

安全バーの設置

コーナーガードの設置

グランドフェンスの改修→

(2) 傷病予防

けがの発生件数やけがの種類別発生件数，部活動でのけがの件数を保健室前のホワイト

ボードに掲示し注意喚起を行っている。また，外傷予防に対する注意喚起を図るために，けがの対処法等を同時に掲示している。

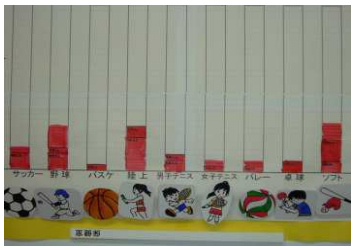
中学校では部活動におけるけがが多いため，クラブ別のけが発生件数を掲示し，部活動における外傷に対する意識を高めている。また，養護教諭によるクラブキャプテンを集めてのけが防止教室やけがの対応教室，全校生徒対象の熱中症予防教室を行っている。

生徒会衛生委員会では外傷状況からの分析，また，外傷予防に関するポスターを作成・掲示し，注意喚起を行っている。

外傷発生件数

けがの発生件数

外傷の対処


クラブ別

ポスター

熱中症予防教室

(3) 犯罪予防

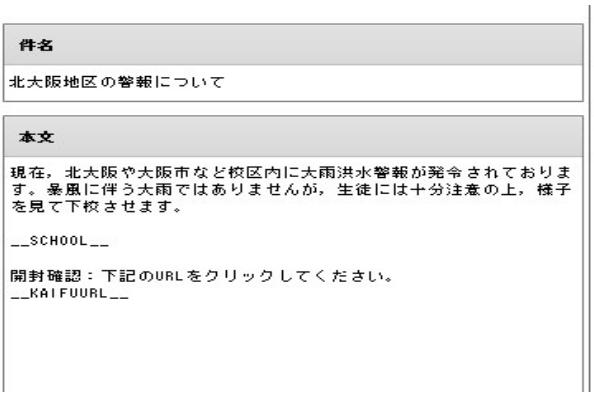
不審者対応に関する訓練を，教職員を対象としたものを年 2 回，生徒を対象としたものを年 1 回行っており，訓練後反省会で論議を行い，課題を明確にしている。また，生徒は訓練終了後に課題に対する振り返りを行っている。

「犯罪発生情報」とそれの被害を防止するための「防犯対策情報」を提供する安まちメール，保護者への一斉メール配信や登下校メール配信の活用も図っている。

不審者対応訓練(教職員)

反省会

不審者対応訓練(生徒)



件名

北大阪地区の警報について

本文

現在，北大阪や大阪市など校区内に大雨洪水警報が発令されております。暴風に伴う大雨ではありませんが，生徒には十分注意の上，様子を見て下校させます。

__SCHOOL__

開封確認：下記のURLをクリックしてください。
__KAIFUURL__

一斉メール配信

登下校メール配信

(4) 生活指導

中学生の発達段階を考え，毎年，警察機関・保健所・薬剤師会による「薬物乱用防止教室」および携帯電話会社講師による「ケータイ」安全教室を実施し，自身が被害者・加害者にならないように指導している。

生徒会では「いじめ」に関するアンケートの実施・分析，生徒集会での啓発活動を行い，「心の安心・安全」に取り組んでいる。

薬物乱用防止教室

ケータイ安全教室

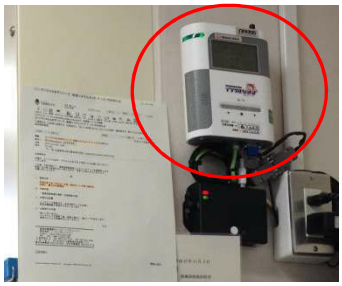
生徒会挨拶運動

(5) 災害安全

火災や地震に対応する訓練を消防署の支援を受けながら実施している。実施にあたっては，訓練時間を予告しない，教員のアナウンスではなく緊急地震速報(デジタルなまず)を使用する等，子どもたちが考え，判断する場面を重視した訓練を行っている。また，訓練前に KYT(危険予知トレーニング)学習を実施したり，訓練後は振り返りを行うことにより危険に対する対応力を養っている。

本校では応急手当普及員の資格をもった教員による普通救命講習を毎年教職員，保護者を対象に実施している。また，子どもたちには保健の授業で保健体育教員と応急手当普及員の資格を持った教員が連携して救急救命の授業を行っている。

地震対応避難訓練



デジタルなまず

KYT 学習

生徒会役員の消火訓練

普通救命講習(教職員)

救急救命の授業(生徒)

(6) 交通安全

子どもたちの登校時に毎日，日直が巡回指導を行っている。また，PTA 安全委員会が実施する保護者による立ち当番も毎日実施し，子どもたちの安全を見守ると同時に登校時におけるマナー向上にも努めてる。

PTA 立ち当番

巡回指導

(7) 家庭・地域との連携

保護者を対象とした講座として，携帯電話会社講師による「ケータイ安全教室」，本校スクールカウンセラーによる「思春期講座」等を行い，子育てに関する啓発活動を行っている。また，小学校・高等学校の PTA と連携しキャンパス内の樹木の剪定や清掃を行うことで視認性を高め安全性を確保する活動「キャンパスクリーン」を展開している。

地域からの見守りのお願いとして，小学校・中学校・高等学校の PTA・学校が共同で警察・消防・市役所をはじめ近隣に挨拶回りを行っている。

思春期講座

キャンパスクリーン

指標－４　危険の発生が危惧される、もしくはその影響を受けやすいと想定されるすべての集団や環境を対象とした安全の取り組みが策定され実践されている

(1) 学校安全の手引き

学校安全に関すること(日常の学校安全，生活安全，災害安全，交通安全，水泳の安全管理等)をマニュアル化し学校安全の手引きにまとめている。そして，この冊子を本校の教職員に配布し，，教員が常時携行する iPad にもこの冊子を電子データで入れている。

また，学校安全の手引きは各種訓練の反省等を活かし毎年改訂を加えている。

(2) 小学校との合同避難訓練

中学生はその発達段階から自分自身の身を守る(自助)だけではなく，まわりの人，とりわけ自分より弱い立場にいる人を助ける(共助)ことは十分可能である。隣接する附属池田小学校の児童と地区別に下校する合同避難訓練を実施している。

安全な下校のための助言

中学生と小学生が共に下校

(3) 防災備蓄倉庫

大規模災害に備え，キャンパス内には防災備蓄倉庫を設置している。倉庫には中高生・教職員の一日分の水・食料・寝袋等を蓄えている。また，必要に応じて地域の方々へ物品を提供する準備を進めている。

- 発電機　4 台
- 多機能ランタン 20 台(蛍光灯・ラジオ機能付)
- 保存水(500ml)　4,200 本(1 人 4 本/日)
- レスキューフーズ　2,100 食(1 人 2 食/日)　　・封筒型シェラフ 1,050 個

防災備蓄倉庫

備蓄品

(4) キャンパスクリーン

小学校・高等学校の PTA と連携しキャンパス内の樹木の剪定や清掃を行っている。このことにより，キャンパス内の死角が減り視認性を高めることができ安全性を確保することができる。

指標－５　各種の安全の推進に関わる取り組みについて、明確な根拠に基づいた実証性のある評価が行われている

(1) 施設設備

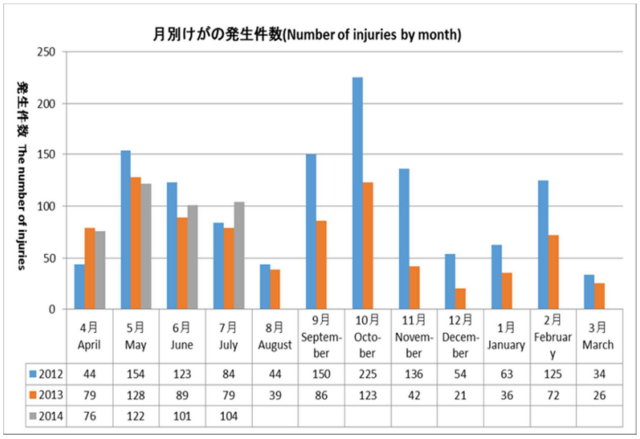
月に１回，教職員が校内安全点検を行い，問題箇所があれば随時，修理・改善を行っている。すぐに，修理・改善が図れない場合は応急処置を施した後，記録を保管しておき，適宜，修理・改善を行っている。

転落防止(階段踊り場いすの撤去)

ウォータークーラーの更新

(2) 外傷予防

保健室に来室した月日・曜日，学年・学級，性別，来室理由，校時，けが名，部位，場所，原因(けが)，手当て(けが)，発生時刻，備考(詳細)の記録を蓄積・分析し，外傷の特徴を明らかにし，予防策を策定している。



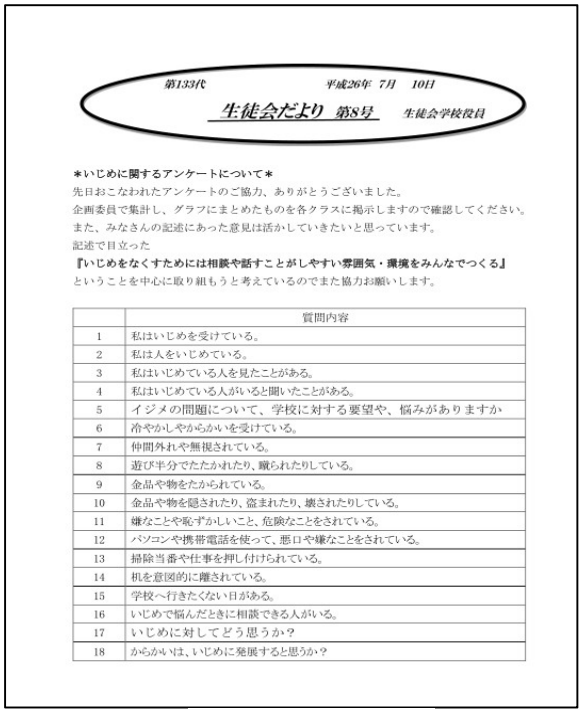
	4月 April	5月 May	6月 June	7月 July	8月 August	9月 Septem-ber	10月 Octo-ber	11月 Novem-ber	12月 Decem-ber	1月 January	2月 Februar y	3月 March
2012	44	154	123	84	44	150	225	136	54	63	125	34
2013	79	128	89	79	39	86	123	42	21	36	72	26
2014	76	122	101	104								

月別けがの発生件数

けが予防のポスター

(3) 生活指導

生徒会で取り組んでいるいじめアンケートを集約し，その結果をもとにできることを生徒集会でよびかけたり，クラス活動で取り組んでいる。



第133代　　平成26年 7月　10日

生徒会だより 第8号　　生徒会学校役員

＊いじめに関するアンケートについて＊

先日おこなわれたアンケートのご協力、ありがとうございました。
企画委員で集計し、グラフにまとめたものを各クラスに掲示しますので確認してください。
また、みなさんの記述にあった意見は活かしていきたいと思っています。
記述で目立った
『いじめをなくすためには相談や話すことがしやすい雰囲気・環境をみんなでつくる』
ということを中心に取り組もうと考えているのでまた協力お願いします。

	質問内容
1	私はいじめを受けている。
2	私は人をいじめている。
3	私はいじめている人を見たことがある。
4	私はいじめている人がいると聞いたことがある。
5	イジメの問題について、学校に対する要望や、悩みがありますか
6	冷やかしやからかいを受けている。
7	仲間外れや無視されている。
8	遊び半分でたたかれたり、蹴られたりしている。
9	金品や物をたかられている。
10	金品や物を隠されたり、盗まれたり、壊されたりしている。
11	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされている。
12	パソコンや携帯電話を使って、悪口や嫌なことをされている。
13	掃除当番や仕事を押し付けられている。
14	机を意図的に離されている。
15	学校へ行きたくない日がある。
16	いじめで悩んだときに相談できる人がいる。
17	いじめに対してどう思うか？
18	からかいは、いじめに発展すると思うか？

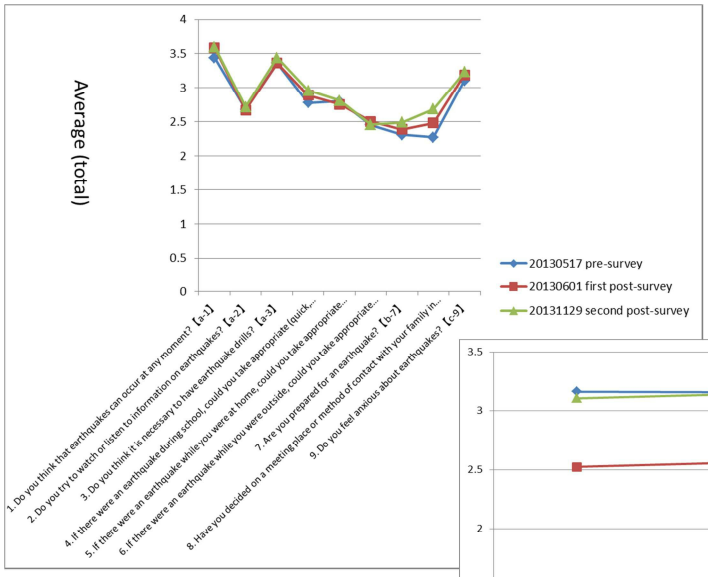
生徒会だより

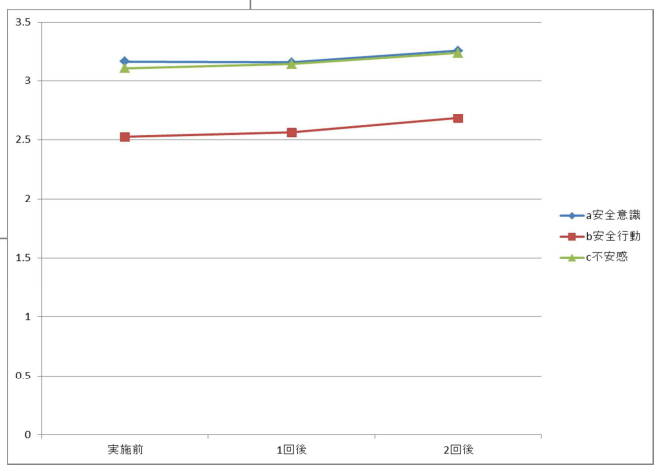
クラスでのよびかけ

生徒会での打ち合わせ

(4) 災害安全

避難訓練等を行った後，教職員の反省会，生徒の振り返り，またアンケートを実施し，分析を行いながら，安全意識や安全行動に関する変容を分析し効果の検証を行っている。





指標－６　学校の管理下で発生したすべての災害（負傷・疾病、不慮の事故、意図的な暴力や自傷行為等によるものを含む）の発生状況や原因等を記録・分析し、その後の対策立案に活用可能な資料として文書化されている

(1)外傷記録

保健室に来室した月日・曜日，学年・学級，性別，来室理由，校時，けが名，部位，場所，原因(けが)，手当て(けが)，発生時刻，備考(詳細)の記録を蓄積・分析し，外傷の特徴を明らかにし，予防策を策定している。

月	日	曜日	学年	学級	性別	来室理由	校時	けが名	部位	場所	原因(けが)	手当て(けが)	発生時刻	授業(体育)	備考
1	14	火	1年	C組	女	けが	1h	切傷	手・腕	特別教室	その他	絆創膏	1時間目	技術	技術でのこぎりが当たって、左手中指が切れた。(1時間目　技術)
1	14	火	1年	C組	女	けが	1h	刺傷	手・腕	特別教室	その他	その他	1時間目	技術	右手の指にとげが刺さった。ピンセットで除去。(1時間目　技術)
1	20	月	1年	B組	女	けが	2h	切傷	手・腕	特別教室	その他	絆創膏	2時間目	技術	技術の時間に左手人指し指と薬指を切った。傷は小さく、浅い。(2時間目　技術)
1	15	水	1年	B組	女	けが	2h休み	擦過傷	足	運動場	転倒	消毒	1時間目	体育	体育終了間近に、転倒し、膝を擦りむいた。(1時間目　体育)
1	15	水	1年	B組	女	けが	始業前	擦過傷	足	運動場	転倒	消毒	始業前		朝休みにグランドで転倒して、左ひざを擦りむいた。(朝休み)
1	17	金	2年	C組	女	けが	3h	つき指	手・腕	体育館	当たる	冷やす	3時間目	体育	3時間目の体育で、いつの間にか左人指し指を突き指していた。小6のときのも同じところを骨折している。腫脹あり、介達痛なし。(3時間目　体育)
1	7	火	2年	A組	女	けが	始業前	擦過傷	足	家	転倒	消毒	その他		家の前で転倒し、右ひざを擦りむいた。(今朝)
1	15	水	2年	C組	女	けが	クラブ活動中	筋を痛めた	背中	運動場		経過観察	その他		2～3日前から、背骨のすぐ左が痛い、走っていると痛みがある。圧痛なし、可動域問題なし。様子を見ながら、経過観察するように伝えた。(部活　陸上)
1	23	木	2年	D組	女	けが	2h休み	筋を痛めた	手・腕	その他		冷やす	その他		左手の平の付け根が気づいたら痛い。圧痛あり、手のひらをそると痛い。原因不明。
1	24	金	2年	D組	女	けが	放課後	爪が割れた	手・腕	その他		その他	その他		きづいたら爪が割れていた。爪切りで対応。
1	20	月	3年	D組	女	けが	6h	切傷	手・腕	特別教室	当たる	絆創膏	6時間目	技術	技術でのこぎりを使っていた際に、右手人さし指を切った。傷は浅く、小さい。(6時間目　技術)
1	22	水	3年	A組	女	けが	2h休み	筋を痛めた	手・腕	特別教室	荷重がかかる	湿布	その他	技術	月曜日の技術で車いすに乗ったまま、タイヤを浮かせようとして左手中指を痛めた。(月曜日　3時間目　技術)
1	21	火	3年	B組	女	けが	6h休み	筋を痛めた	足	体育館	その他	湿布	2時間目	体育	体育で大縄をやった。その後の3時間目に左足の甲の筋が痛くなった。(2時間目　体育)
1	20	月	3年	C組	女	けが	6h休み	皮がむけた	足	体育館	荷重がかかる	絆創膏	6時間目	体育	左足の裏の水ぶくれが体育をやっているときにつぶれた。(6時間目　体育)
1	9	木	3年	B組	女	けが	始業前	刺傷	足	その他	その他	消毒	始業前		足の裏にとげが刺さった。
1	31	金	3年	D組	女	けが	始業前	やけど	手・腕	家	その他	冷やす	その他		ホットサンドの機械で右前腕を火傷した。家で手当してきたが痒くなったので水で冷やす。(一昨日　家で)
1	17	金	3年	B組	女	けが	始業前	擦過傷	足	通学路	転倒	消毒	登下校		通学中に転倒し、右膝を擦りむいた。(登校中)
1	21	火	3年	B組	女	けが	放課後	打撲	頭	教室	当たる	冷やす	放課後		教室の後ろの黒板のふちに頭頂部をぶつけた。腫脹なし、発赤あり。30分経過観察したが他の症状は見られなかった。(放課後)
1	9	木	1年	B組	男	けが	2h	擦過傷	手・腕	特別教室	その他	消毒	2時間目	技術	技術の時間にノコギリで左手の甲を切ってしまった。
1	9	木	1年	B組	男	けが	2h	擦過傷	手・腕	特別教室	その他	消毒	2時間目	技術	技術の時間に木で左手小指を擦った。
1	20	月	1年	B組	男	けが	2h	切傷	手・腕	特別教室	その他	絆創膏	2時間目	技術	技術の時間にのこぎりで左手人指し指を切った。傷は小さく、浅い。(2時間目　技術)
1	21	火	1年	D組	男	けが	3h休み	切傷	手・腕	廊下階段	その他	絆創膏	3時間目	技術	技術の時間に左手親指を切った。(3時間目　技術)
1	21	火	1年	D組	男	けが	3h休み	切傷	手・腕	特別教室	その他	ガーゼ	3時間目	技術	技術の時間に右手小指の腹を切った。指先なので止血するのに少し時間がかかった。(3時間目　技術)
1	10	金	1年	C組	男	けが	6h休み	つき指	手・腕	運動場	当たる	湿布	5時間目	体育	5時間目の体育で突き指した。左人差指の付け根に少し腫れがあり、介達痛(－)曲げることはできるが、痛いと言うことなので念のため副木付きで固定して様子見させた。
1	16	木	1年	D組	男	けが	1h休み	切傷	目	教室	当たる	消毒	1時間目休み		池田君の筆がお環境にあたり、切れる。(1時間目休み)
1	14	火	1年	B組	男	けが	6h	打撲	手・腕	廊下階段	転倒	冷やす	6時間目		数学準備室近くの階段で、落として滑っていった筆をとろうとして、転倒。左肩肩、右手小指の側面を打撲。運動制限なし。(14-25)
1	15	水	1年	C組	男	けが	6h休み	擦過傷	手・腕	中庭	その他	消毒	始業前		昼休みに中庭の池で遊んでいたら、いつのまにか擦れていた。(昼休み)
1	17	金	1年	C組	男	けが	1h休み	擦過傷	足	その他	当たる	消毒	登下校		下足庫で、友人が転倒し鉄板が少し上がって、左足首に当たった。(通学中)
1	24	金	1年	B組	男	けが	放課後	骨折	手・腕	校庭	転倒	病院へ	登下校		集団で走って下校していた。後方の友人が転倒し、巻き込まれ、本人も転倒。左の頬を地面に打ち付け、擦過傷と腫脹が見られた。左手首をうまくつけずに負傷。
1	22	水	2年	D組	男	けが	2h休み	皮がむけた	手・腕	教室		絆創膏	2時間目		親指付近の皮がいつの間にかめくれていた。ティッシュで止血していたが、20分程度経過で出血が続いていた。(2時間目)
1	20	月	2年	A組	男	けが	6h休み	爪が割れた	手・腕	運動場	当たる	絆創膏	6時間目		昼中タイムの時に左手の中指の爪が割れた。爪切りで切って、絆創膏で保護した。(6時間目　昼中タイム　アルティメット)
1	7	火	2年	A組	男	けが	HR	切傷	手・腕	教室	その他	絆創膏	HR		カレンダーの紙で左人指し指を切った。(HR中)
1	6	月	2年	D組	男	けが	部活動	打撲	目	運動場	当たる	冷やす	クラブ		野球部の練習中、吉川がフライで投げたボールを取り損ね、本人の左眼に当たった。腫れ・発赤・圧痛・ぼやけあり、対光反射異常なし。15分程冷やし、保護者に連絡。家庭で様子を見て、病院受診を判断する。顔間に連絡済。
1	31	金	2年	C組	男	けが	クラブ活動中	打撲	手・腕	運動場	転倒	冷やす	クラブ		練習中転倒し、左手を地面についた際、左前腕部を痛めた。圧痛あり、腫脹なし、運動制限なし。(部活　サッカー)
1	24	金	2年	B組	男	けが	清掃中	擦過傷	手・腕	廊下階段	転倒	絆創膏	掃除		窓際で窓拭きをしていたら転倒し、手のひらを擦りむいた。(大掃除)
1	24	金	2年	B組	男	けが	4h	筋を痛めた	足	その他	その他	冷やす	その他		右膝が昨日のプールから痛い。体育後に余計痛くなった。(外のクラブ　昨日)
2	10	月	1年	B組	女	けが	2h	切傷	手・腕	特別教室	当たる	絆創膏	2時間目	技術	技術の時間、やすりが飛い余って右手親指の爪付近に当たった。2～3mm切れた。(2時間目　技術)
2	20	木	1年	D組	女	けが	放課後	切傷	手・腕	特別教室	当たる	絆創膏	放課後	技術	技術の作業をしていて、摩擦で左手中指を切った。(放課後)
2	12	水	1年	D組	女	けが	1h休み	腱を痛めた	足	運動場	その他	冷やす	1時間目	体育	持久走をしていた。途中から右腿が徐々に痛くなり、走り終わった後が一番痛かった。腰を伸ばすと痛みがあるので、包帯で固定した。腫脹、圧痛なし。(1時間目　体育　持久走)
2	17	月	1年	A組	女	けが	クラブ活動中	擦過傷	足	運動場	転倒	消毒	クラブ		陸上でリレーをしていた。友人と接触し転倒。両ひざを擦りむいた。(陸上)
2	25	火	1年	B組	女	けが	クラブ活動中	つき指	手・腕	運動場	当たる	冷やす	クラブ		打球をとろうとしたところ、グローブをした左手の小指付近にボールが当たり、小指を突き指したようになった。若干腫脹あり、曲げると痛い。介達痛なし。固定と冷やして帰宅させる。(部活　ソフト)
2	21	金	1年	A組	女	けが	放課後	筋を痛めた	足	その他	その他	湿布	その他		先週に、気づいたら右足首が腫れていた。痛みが続くので湿布を貼っていたが、張り替えてくださいとのこと。

(2)各種訓練の振り返り

年間に行われている各種の訓練の後には必ず反省会が実施される。反省会の中では各グループに分かれ，改善された点や課題等について様々な意見が出される。また，それらの意見は全体で共有され，次回に活かされる。(PDCA に基づく活動)

※平成 25 年度

月	日	時間	種類	対象	反省
5	20	13:10-13:35	地震	生徒 教職員	訓練の際の放送の把握が生徒の中で十分できておらず，行動に遅れが生じた。 昼休みの流れの中で訓練が始まったので生徒の中で緊張感が足りない訓練となった。
5	23	16:30-17:15	水泳事故	教職員	職員室とプールとの情報共有がうまくできなかった。空き時間の教員の活用が不十分であった。 プールへの応援要員の派遣が不十分であった。
7	9	13-30-15-10	不審者	教職員	内側から施錠するための鍵が壊れているクラスや非常扉が開きにくいなどの設備面での不具合が明らかになった。情報伝達法について，以前から不審者の 1F への進入時に，2F では様子がわからないという意見が出ていたが，今回の訓練では解決することができなかった。
9	2	13:15-1335	火災	生徒 教職員	放送後，火災現場の特定をまたず，避難を開始したクラスがあったので，指示に対して十分留意するように周知しなければならない。 通報訓練の際，燃えているものが設定されておらず，今後はそこまでの設定を考慮したい。
11	30	19:15-10:35	地震	生徒 教職員	体の大きな 3 年生は理科室の机の下に体が入らず，ファーストインパクト時の対応について普段から生徒に検討させておく必要性を感じた。
12	5	11:00-11:20	不審者	生徒 教職員	具体的な状況を作り出しての訓練ではなかったので，今後より通常の学校生活内での訓練が行えるようにしたい。避難後の点呼時に，ケガの有無や状況などについての報告が不十分であったので，改善していきたい。
12	4	13:30-15:00	不審者	教職員	訓練当日は出張等で職員の人員が少なく，対応が苦しい状況であった。特に，通常授業を行っている状況での訓練で，空き時間の教師(安全確保斑)の人数が少なく，不審者の追跡が事実上一人となってしまった状況であり，職員の安全が脅かされた事態となっていた。

指標－７　学校における安全方針や学校安全計画に含まれる各種の安全の取り組みによる効果の推移と成果について、客観的な尺度を用いた測定・評価が実施され、その結果が活用可能な資料として整理保管されている

(1)資料内容の区分

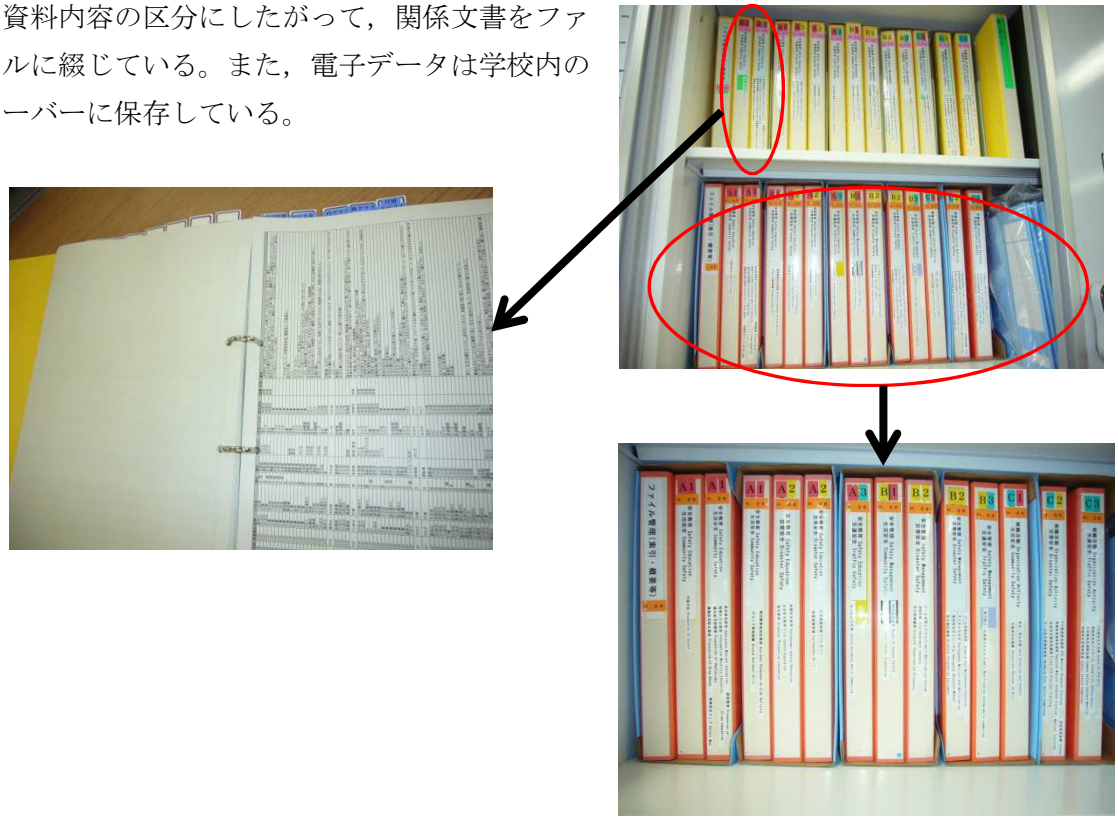
	A 安全教育 安全学習および 安全指導	B 安全管理 対人管理および 対物管理	C 組織活動 生徒会活動、PTA 活動 および地域(関係諸機関)との連携
1 生活安全	Ａ１	Ｂ１	Ｃ１
2 災害安全	Ａ２	Ｂ２	Ｃ２
3 交通安全	Ａ３	Ｂ３	Ｃ３

区分	内　　容
A1	外傷予防(Prevention of Injury)
A1	防犯教育(Prevention of Crime Education)
A1	地域安全マップ(Safety Map)
A1	グランド事故訓練(Ground Accident Drill)
A1	薬物乱用防止教室(Prevention of Drug Abuse)
A1	熱中症予防教室(Prevention of Heatstroke)
A1	部活動事故対応教室(Accident Response on Club Activity)
A1	救急救命教育(Emergency Medical Education)
A1	情報モラル教育(Information Morality Education)
A2	地震避難訓練(Earthquake Drill)
A2	火災避難訓練(Fire Drill)
A2	防災教育(Disaster Prevention Education)
A2	火災安全教育(Fire Safety Education)
A2	地震安全教育(Earthquake Safety Education)
A3	登下校安全指導(Safety Guidance while commuting)
B1	学校安全規則(Rules of School Safety)
B1	校内安全点検(School Safety Inspection)
B1 B2	メール送信システム(E-mail Notification System)
B1 B3	登下校メール送信システム(E-mail Notification System while commuting)
B2	消防計画(Fire Department Schedule)
B2	防災組織編制(Disaster Organization Procedure)

B2 B2	緊急時対応マニュアル(Emergency Response Manual) 防災物品備蓄(Disaster Prevention Equipment)
B2	プール管理点検表(Swimming Pool Maintenance Inspection)
B2	デジタルなまず(Earthquake Monitor and Notification)
C1 C3	安全・安心活動(Safe Practice and Conduct)
C1 C2	教職員普通救命講習(Employee Medical Response training)
C1 C2	PTA 普通救命講習(PTA Medical Response training)
C1 C2	応急手当普及員講習(First Aid Provider Training　)
C1	不審者対応訓練(Suspicious Persons ID Drill)
C1 C2 C3	学校教育診断(School Medical Training)
C2	プール安全管理委員会(Swimming Pool Safety Committee)
C1 C2 C3	学校安全管理委員会(School Safety Committee)
C1 C2 C3	小中高安全連絡会議(Campus Safety Contact Meeting)
C3	PTA 登校立ち当番(Guard of PTA Duty)
C3	池田市安全パトロール(Ikeda-city Safety Patrol)

(2) 資料の保管

資料内容の区分にしたがって，関係文書をファイルに綴じている。また，電子データは学校内のサーバーに保存している。



指標－８　各地域や国内外での学校安全推進の取り組みに積極的に参加して、安全に関わる先進事例の収集に努めるとともに、自校の実践に関わる経験の情報発信やその成果の共有に取り組んでいる

2012. 4.14	第 2 回アジア・太平洋学校安全推進フォーラムに参加 日本 International Safe School 認証センター記念祝賀会に参加
2012. 7.30～31	学校安全主任講習会に参加
2012.11. 4	ＩＳＳ推進員養成セミナーに参加
2012.11.17	熊本大学附属中学校から学校安全視察受入
2012.11.29	International Safe School 認証取得を目指す意思を正式の表明
2012.12.12～15	台湾嘉義市 International Safe School の取組視察
2013. 3. 2	アジア・太平洋学校安全推進フォーラムで生徒が取組発表
2013. 3. 4～5	大阪教育大学附属池田小学校 ISS 再認証実地審査，認証式典に参加
2013. 7. 1	タイ王国教育省から学校安全視察受入
2013.11.29	東京学芸大学附属小金井中学校から学校安全視察受入
2013.12.25～28	台湾台北市 International Safe School の取組視察
2014. 1.25	ＩＳＳ推進員養成セミナーで取組発表
2014. 2.27	愛知県西尾市立西尾中学校から学校安全視察受入
2014. 3. 7	学校危機メンタルサポートセンターセンターフォーラムに参加
2014. 3. 8	臨時ＩＳＳ推進員養成セミナーに参加
2014. 3.24	e 安全学習研修会に参加
2014. 5.12～15	第 7 回アジア地域セーフコミュニティ国際会議で取組発表(韓国釜山)
2014. 7.30～31	学校安全主任講習会に参加
2014.10. 9	International Safe School 認証実地審査

アジア・太平洋学校安全推進フォーラムで生徒が取組発表

アジア地域セーフコミュニティ国際会議で取組発表(韓国釜山)

Ⅸ. 長期展望

1. 長期目標

(1)部活動や体育的行事における外傷を大幅に減少させる効果的な予防対策

(2)生徒が創り上げるいじめのない安全・安心な学校

(3)安全意識・安全な行動力を養う安全教育の充実

2. 短中長期目標(3 年以内)

課　　題	短期（1 年）	中　期（2 年）	長　期（3 年）
救急救命に対処する能力を向上させる	・教員が応急手当普及員資格を取得することをめざす →全教員の 30%以上が応急手当普及員の資格を取得する	・保護者対象の普通救命講習を毎年実施する →3 年間で全家庭の 30%以上が受講する	・生徒自身が不測の事態に対応できる救急救命の能力を取得する。 ・救急救命に関する施設および設備を一層充実させる
部活および体育的行事における外傷件数を減らす	・外傷の状況を正しく把握し、安全に対する意識を高める →校内におけるけがを 20%以上減らす	・部活中における外傷予防に努める →クラブ対象の外傷予防教室を毎年実施する →部活中におけるけがを 20%以上減らす	・部活および体育的行事における外傷予防の具体的方法を実施する →部活および体育的行事におけるけがを 30%以上減らす
いじめ、暴力のない安全安心な学校を構築する	・生徒会によるいじめ等に関するアンケートを実施する	・生徒会を中心にした、いじめのない学校づくりに取り組む →いじめやいやな思いをしている生徒を 0 にする	・いじめ、暴力のない安全安心な取組を発信する →他校の生徒会と交流会を行う
災害発生時および発生後の対応システムを構築する	・防災備蓄倉庫の備品の適切な管理および充実を図る ・メール配信システムおよび登下校メール配信システムの適切な運営を行う	・災害発生後の保護者との連絡方法や引き渡し方法等を確立する	・登下校時に発生した災害に対し適切に対応するシステムを構築する
登下校時における安全意識とマナーの向上を図る	・教員による巡回指導を定期的に行う ・PTA 立ち当番のシステムを変える	・教員による巡回指導を毎日行う ・PTA 立ち当番が 0 または 1 の日を減らす →立ち当番 0 または 1 の日数を 20%以内にする	・生徒会を中心とした交通安全、マナー向上の取組を行う ・PTA 立ち当番 0 または 1 の日数を 10%以内にする
学校安全の取り組みを発信する	・安全に関する研修会に積極的に参加する →研修会にのべ 3 人以上参加する ・ISS 推進員養成セミナーに参加する →3 人以上の教員が ISS 推進員の資格をとる	・国内外の ISS 認証実地審査等に参加する ・国内外からの視察を受け入れる ・安全に関する研修講師を務める	・国内外の安全会議等において本校の取組を発表する ・ISS 認証をめざす学校を支援する

「ISS ロゴ 」(大阪教育大学附属池田中学校)

校章の枠の中に，附中のシンボルである“帆走する雲”をデザインしました。
“帆走する雲”は世界的な彫刻家である新宮 晋 先生(本校 5 期生)の作品です。
その雲からは，みんなの安心・安全の笑顔が溢れるようにと願い，“虹”がかかり，夢や希望の“星”が輝いています。
みんなが安心して安全に過ごせる学校づくりを生徒会が主体となって目指します。